



第2部

グローバル化の深化と 国際的枠組みの強化

第1章

国際特許出願構造と国際協力の課題

1

世界のコア出願

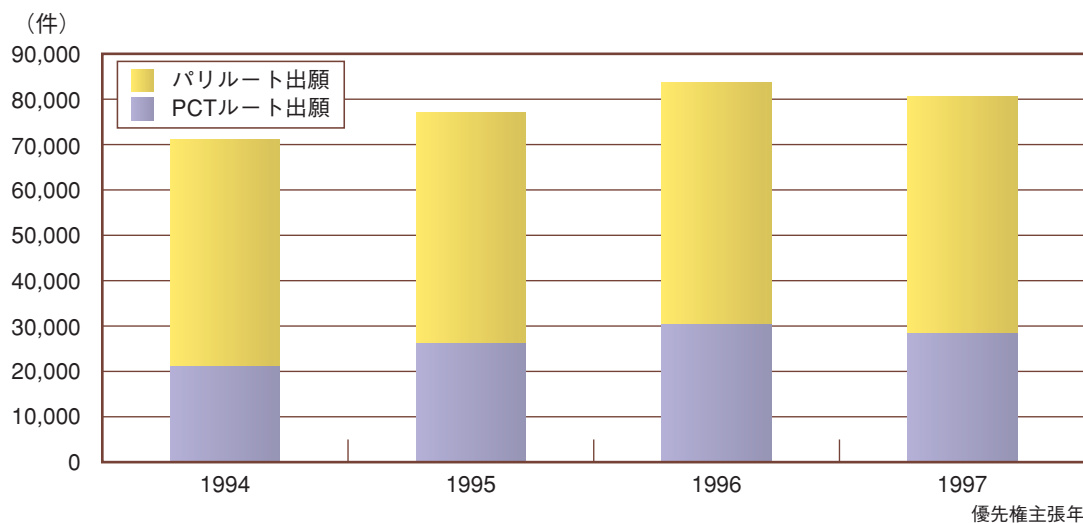
経済活動のグローバル化が進んだことにより、重要な発明は国内だけではなく外国にも出願されている。そのような外国出願のもととなった国内出願を計数する指標は様々であるが、ここでは、世界市場の大きな部分を占め、かつ特許出願数の多い日米欧の三極について、

①日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にして特許協力条約に基づく国際特許出願がなされたもの（PCTルート出願）

②日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にしてPCTルート以外で他の二極のいずれかへ出願がなされたもの（パリルート出願）

の双方を「世界のコア出願」と定義し、コア出願の構造や動向を分析することにより、海外が先行して技術開発を行っている分野を特定するなど、海外の注目技術に関する調査の重要な視点を提供する。

世界のコア出願件数の推移



重要出願として位置づけられる世界のコア出願は、最近では年間8万件近く出願されており、増加傾向である（1997年のコア出願件数の減少は、現時点で米国における未審査または拒絶により登録されていない出願件数が1996年以前に比べ多いためと推定される）。コア出願の1/3がPCTルートによる出願であり、その割合はわずかずつ増加している。

調査対象国：日本（JP）、米国（US）、欧州（EP）、国際出願（WO）

欧州は、ベルギー（BE）、スイス（CH）、ドイツ（DE：旧東ドイツ含まず）、フランス（FR）、イギリス（GB）、オランダ（NL）、スウェーデン（SE）及びEPC出願を指す。

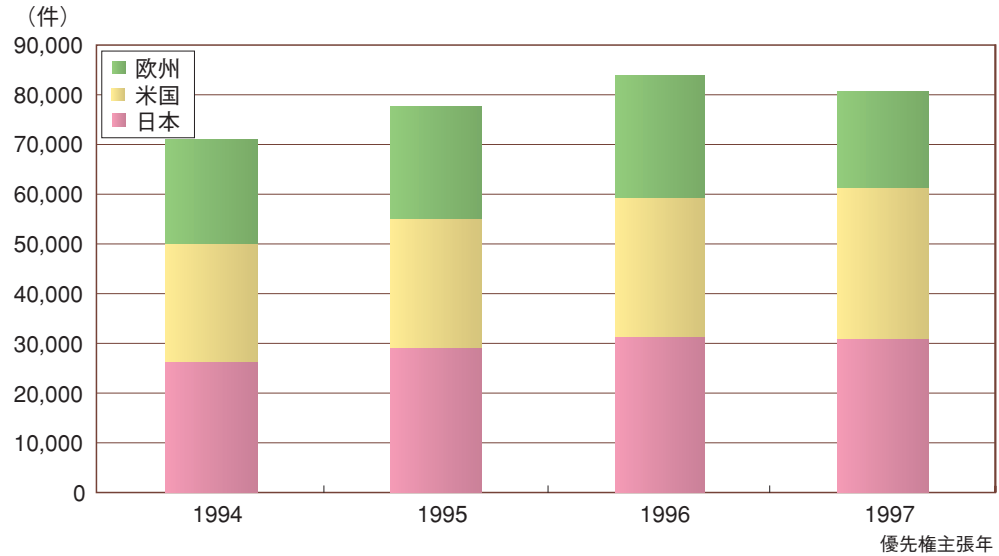
調査対象機関：優先権主張年が1994年～1998年の出願で、2001年2月27日までにダウエント社が収録した特許出願データを対象とした。

調査使用データベース：ダウエントデータベースWPI（日本・欧州については公開されたものを集計している。米国については登録されたものを集計しているため、未審査または拒絶された出願はデータに含まれていない）

解析内容：日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にして特許協力条約に基づく国際特許出願がなされたもの、あるいは他の二極のいずれかへ出願されたものを国別、技術分野別に算出。なお、遺伝子工学はIPC=C12N15、ビジネス方式はIPC=G06F17/60のもの。

日本国籍出願は自国出願の中でのコア出願の割合が10%と三極中最も低く、欧米に比べ国内出願重視の傾向が強い。またコア出願ルートはパリルートがほとんどで、PCT利用率は11%と低い。これに対し、米国国籍出願は自国出願の中でのコア出願の割合が33%と最も高く、出願ルートもPCTの利用率が54%と高い。欧州国籍出願は総数では1.9万件と少ないものの、米国についてコア出願の割合が29%と高い。

出願人国籍別コア出願件数の推移



コア出願の規模

	A：出願総数 (1997年出願)	B：コア出願 (1997年出願)
日本国籍出願	32.0万件	3.1万件
米国国籍出願	9.0万件	3.0万件
欧州国籍出願	8.9万件	1.9万件

	B/A：コア出願率平均 (1994年－1997年)	PCT利用率平均 (1994年－1997年)
日本国籍出願	10%	11%
米国国籍出願	33%	54%
欧州国籍出願	29%	42%

ここでは各地域ごとの技術分野別の出願傾向を分析するために各地域内での出願構成比（技術分野ごとのコア出願件数／総コア出願件数）を算出した。

日本は電子部品、半導体、光学分野の出願構成比は大きい。しかし、バイオ、遺伝子工学、医薬品、有機化学、医療機器といったライフサイエンス分野に関わる重点分野について欧米の出願構成比は日本を上回っており、日本は欧米に比べ重点分野への選択と集中度が低い。

コア出願分野別構成比の三極比較

